

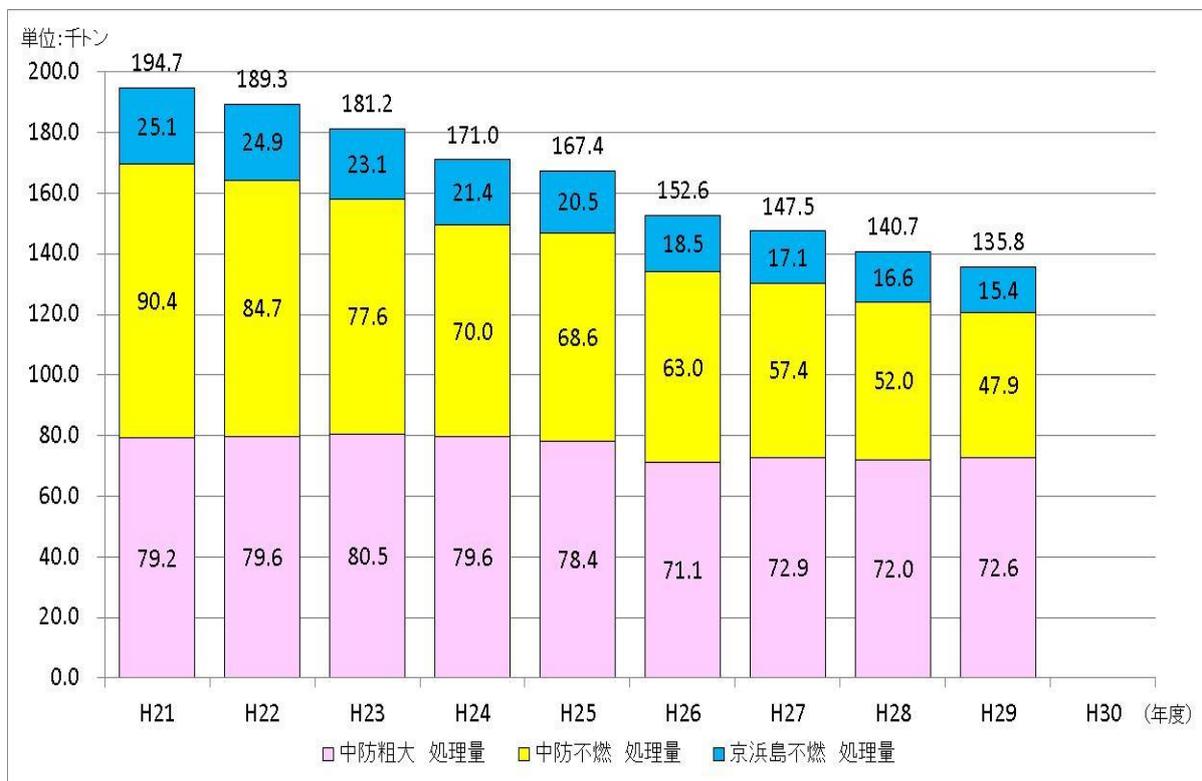
不燃ごみ・粗大ごみ処理施設の施設整備計画

1 不燃ごみ及び粗大ごみの処理量の推移

不燃ごみ及び粗大ごみの処理量の推移は、図－1 に示すとおりです。

不燃ごみの処理量は、民間事業者を活用した資源化や平成 25 年の小型家電リサイクル法の施行に伴う小型家電の回収等、各区が実施する資源化施策により減少しています。

一方、粗大ごみの処理量は、金属製品のピックアップ回収を実施している区があるものの、依然として布団や家具などが多くを占めており、概ね横ばいで推移しています。



図－1 不燃ごみ及び粗大ごみの処理量の推移

2 各施設の現状と課題

(1) プラント施設の現状と課題

不燃ごみ・粗大ごみ処理施設の現状と課題を表-1に示します。

中防及び京浜島不燃ごみ処理施設は、摩耗・腐食環境下での処理のため、計画的な維持管理による機能維持を図っていく必要があります。また、当初は大量の不燃ごみを全量破碎し、減容化するために整備された施設のため、資源回収や可燃物と不燃物の分離回収を徹底して行うには限界があります。

粗大ごみ処理施設は、受入・搬出ヤードの粉じん対策が十分でないことや、しゅん工から約40年経過し建屋の一部に老朽化が見られます。また、非鉄金属の回収設備が無いことや、設備配置上の制約から作業効率が低下しています。

表-1 プラント施設の現状と課題

項目	中防不燃ごみ処理センター 第二プラント	京浜島不燃ごみ処理センター	粗大ごみ破碎処理施設
処理能力	48 t/h×2	8 t/h×4	32.1t/h×2
しゅん工年度	平成8年10月	平成8年11月	昭和54年6月
処理量※	47,874t	15,372t	72,573t
資源回収量※	鉄	5,594t	2,963t
	アルミ	855t	469t
劣化の程度	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎機の防爆用蒸気により、後段のコンベヤ、選別機等が水分により腐食。 ・コンベヤ等の摺動部の摩耗。 ・機器類の経年劣化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎機の防爆用蒸気により、後段のコンベヤ、選別機等が水分により腐食。 ・コンベヤ等の摺動部の摩耗。 ・機器類の経年劣化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建屋コンクリートに劣化の進行がみられ、基礎部等が一部損傷している。 ・破碎機以降の設備は露天設置のため風雨による若干の腐食がある。
環境的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入ヤードは屋根のみで屋外のため、臭気・騒音・振動対策が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入、搬出ヤードは屋根のみであり屋外のため、粉じん飛散の可能性がある。
設備の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不燃物の搬出系統は共通のため、点検等の際は両系列を停止しなければならない。 ・資源回収能力向上改造を行ったが、改善には限界がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不燃ごみの性状変化により、施設の大半を占めるガラスびん色選別設備は使用されていない。 ・資源回収能力向上改造を行ったが、改善には限界がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄以外の資源回収設備がない。 ・破碎機が同一建屋内に設置され、破碎後のコンベヤも共通のため、点検等の際は両系列を停止しなければならない。 ・搬出ヤードが狭く、鉄貯留ヤードが設置できないため、頻繁に一部の処理を停止して搬出するなど、作業効率が悪い。

※平成29年度実績

(2) 別途処理が必要な廃棄物の処理設備の現状と課題

不燃ごみ・粗大ごみには、前処理しないと処理プラントに投入できないものや、破碎処理をせずに別途処理しているものがあります。現在、道路公園の清掃ごみは、不燃、粗大ごみ及び土砂等に分けるための選別処理をしています。また、畳及び大きなサイズの皮革等は裁断処理、スプリングマットレスは解体して鉄分の回収を行っています。

このうち、道路公園ごみの選別と皮革等の裁断処理は、東京都の管理する最終処分場内の一部を借り受けて作業しています。しかし、処分場の埋立しゅん工や周辺環境の変化等により用地を借り続けることは難しくなっています。

3 施設整備計画

周辺地域の環境対策や選別精度の向上による最終処分量の削減を図るため、現基本計画を引継ぎ、(仮称)中防不燃・粗大ごみ処理施設(以下、「新たな施設」という。)を中防不燃ごみ処理センター第一プラントの跡地に整備します。また、施設外に設置していた別途処理が必要な道路公園ごみの選別処理機及び皮革処理機は、新たな施設の敷地内に再設置します。

整備完了後は、現在稼働している粗大ごみ処理施設及び中防不燃ごみ処理センター第二プラントは休止とし、災害発生時の処理に備えます。ただし、休止する2施設の取扱いについては、今後のごみ量や国及び東京都の動向を見て改めて検討します。

なお、現在休止中の破碎ごみ処理施設の取扱いは、その立地から隣接する中防灰溶融施設と一体で検討する必要があるため、今後の焼却灰の資源化等の進捗や東京都の動向などを踏まえ改めて検討します。

(1) 新たな施設の整備

ア 効率的で安定した処理

不燃ごみ・粗大ごみの効率的で安定した共通処理を行うとともに、周辺環境に配慮し環境負荷の低減に努めます。

イ 最終処分量の削減

ごみ処理過程での選別精度を向上させ、資源や不燃ごみ・粗大ごみ処理残渣の可燃分を可能な限り回収することで、最終処分量の削減を図ります。

ウ 処理能力

現基本計画での処理能力は90トン/hとしていましたが、平成30年度末の北区堀船船舶中継所の休止に伴う利用5区の不燃ごみの9割以上が資源化されることから、70トン/hに見直しを行いました。なお、整備時期は平成34年度からとします。

(2) 整備スケジュール

不燃ごみ・粗大ごみ処理施設及び破碎ごみ処理施設の整備スケジュールを図-2に示します。

処理施設名、能力		32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	45年度	46年度
施設名	現行能力															
(仮称)中防不燃・粗大ごみ処理施設	—	←	→	70t/h					注1	2	3	4	5	6	7	8
中防不燃ごみ処理センター第二プラント	48t/h×2基	24	25	26	27	28	29	30	休止							
京浜島不燃ごみ処理センター	8t/h×4基	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
粗大ごみ破碎処理施設	32.1t/h×2基	41	42	43	44	45	46	47	休止							
破碎ごみ処理施設	180t×1炉	休止														

※上記表の枠内の数字は稼働年数を示す。

70t/h 工事期間 注:平成39年度は第二期工事として建屋の工事を実施する。

←→ 環境影響評価手続

図-2 不燃ごみ・粗大ごみ処理施設の整備スケジュール